

ここで知っとこ！

田辺の偉人・南方熊楠

みなさんは和歌山県で生まれた南方熊楠という人を知っていますか？
熊楠は世界的に高名な学者で、特に粘菌や民俗学についての研究は有名です。
熊楠ゆかりの地「田辺市」をこのパンフレットを参考にして旅してみませんか？

熊楠マップ(取材場所)



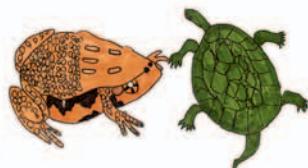
南方熊楠邸



熊楠の家は当時のお金だと 4500 円で、現在で言うと約3千万円です。弟の常楠に 400 坪もある家を買ってもらいました。母屋、書斎、書庫と、3つの建物に分かれています。熊楠は母屋にある縁側がお気に入りの場所で、その縁側でいつも庭の観察をしていました。

家で飼っていた動物

飼っていた動物は、カメ、サソリ、カエル、犬、ねこ、にわとりなどで、カメは今でも一匹生きていて名前は「こたろう」です。ねこの名前は代々「ちよぼろく」でした。カメは多い時で約 40 匹もいて、縁側はカメだらけでした。サソリもわざわざ東京から取り寄せて飼っていました。熊楠はサソリを観察して論文を書きました。



庭について

庭には温州みかんの木を初め、他にも多くの柑橘系の木がたくさん植えられていました。種類は、安藤みかん(*)、夏みかん、さんぼうかん、ネーブル、仏手柑、きんかんなどで、現在より多くの木が植えられていました。熊楠は、庭にある安藤みかんの汁をしぼって健康のために毎日飲んでいました。

*安藤みかん…昔、田辺・上屋敷の旧藩士安藤治兵衛の邸内に大きなみかんの木がありました。そのみかんは安藤治兵衛の名をとり、安藤みかんと呼ばれるようになりました。

今福町周辺で…。

熊楠の親友、喜多幅さん

喜多幅武三郎さんは、熊楠と仲のよかつた人です。熊楠が外国から帰ってきた時に、1番最初に会いに行ったのが喜多幅さんでした。喜多幅さんは熊楠が松枝さんと結婚する時の仲人で、松枝さんは困ったことがある度、喜多幅さんに相談し、熊楠に意見を言ってもらったそうです。

ずっとなかよし

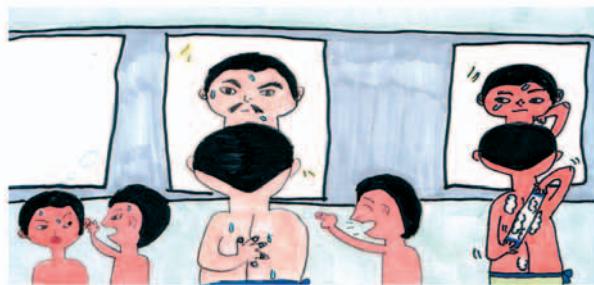
高山寺の熊楠の墓の前には、仲のよかつた喜多幅さんの墓があります。

以前、田辺に風速80メートル以上のすごい台風がきた時、喜多幅さんの墓が半回転し、熊楠の墓と向き合うようになったことがあります。その様子は、まるで仲のよかつたふたりがおしゃべりしているように見えたそうです。



熊野墨汁

みなさん、墨汁を日本で初めて作った人が、南方熊楠だということを知っていますか？ 熊楠は、外国へ行った時の経験を生かし、墨汁を作りました。それを「熊野墨汁」と名づけ、多屋長東店で売り出しました。しかし中国に輸出する際、温暖な紀南とはちがい、厳寒な気候に合わず、瓶が割れてしまいました。このため、熊野墨汁は中国では売ることが出来ませんでした。



今福湯(銭湯)での熊楠

喜多幅さんの家から3、4軒となりに、熊楠が毎日のように通っていた今福湯がありました。当時は、ほとんどの家にお風呂がなかったので、近所の子どもたちも今福湯に来っていました。

文藝春秋(ぶんげいしゅんじゅう)の「素っ裸の南方熊楠」によると、子どもたちが遊び回っている騒々しい湯の中で、ただひとりゆうゆうと身体を洗っている風変わりな人が熊楠だったそうです。熊楠は石けんを使わず爪で垢を落としていました。身の丈は五尺二・三寸(160cm位)で、脂肪太りの丸味に包まれた身体つきで、黄色の肌をしていたそうです。熊楠が湯につかって、胸から脇腹や背中を手を伸ばしてひっかく様子は、まるでゴリラのようだったそうです。



熊楠が通った多屋長東店

今福町に今もある多屋孫書店(多屋長東店)は熊楠と深い関係があります。昔は本のほかにも文具や日用品なども売っていました。熊楠は、今福湯の帰りにこの店で本を買ったり、立ち読みしたりしました。立ち読みで読んだ本は、すべて覚えて帰り、紙に書き残したそうです。熊楠はこの店で、原稿用紙を大量に買ったので、熊楠専用の原稿用紙が作られていたそうです。



南方熊楠顕彰館



館長の中瀬さんです。

中屋敷周辺



熊楠邸の周辺は、明治以降「中屋敷」と呼ばれています。中屋敷とは「中ぐらいの身分の武士の住むところ」という意味だそうです。

ロンドン抜書はっしょ



「ロンドン抜書」は、熊楠がロンドンで書物を書き写したもので、日本ではこんな書物に出会えないと思い、自分の本とするために書き写しました。顕彰館のロンドン抜書はレプリカです。

顕彰館とは？

南方熊楠顕彰館は、熊楠邸に遺された蔵書・資料を恒久的に保存して南方熊楠に関する研究を進め、その成果の活用を図り、熊楠について詳しく分かりやすく研究をするための施設として建設されました。



熊楠の日記

顕彰館の日記は、明治18年～昭和16年までのものです。熊楠は日記を好み、手から離したことが無いといわれるほどだったそうです。子どもの頃のことや大人になってからのことを書きました。この日記はレプリカです。

民俗学と田辺抜書

中瀬館長さんのお話では、熊楠が民俗学を始めたきっかけは、本を読むうちに興味をもったからだそうです。熊楠が田辺で書き写した本「田辺抜書」はお経が中心です。法輪寺にある「大藏經」を写したほか、お風呂屋さんで聞いた噂や熊野地方の話、弁慶の話など、民俗学に関する話を書き残したそうです。

高山寺



高山寺の祭り

高山寺は、和歌山県田辺市稻成町にあり、真言宗を開いたといわれる空海を祀っています。毎年、春と夏に祭りを行っていて、春は空海の命日に、夏は空海の誕生日の日にやっています。

寺宝

高山寺の寺宝は、京都と和歌山の博物館に預けてある長沢芦雪(ろせつ)の掛軸3本と、東京の博物館に預けてある愚極(ぐきょく)の仏の絵と岸駒(がんく)の絵だそうです。

高山寺のオススメ！！

高山寺のおすすめの場所は池の周辺と大師堂・多宝塔・お墓から見える田辺の風景などだそうです。高山寺の中にある池は高山寺が建つ前からあったもので高山寺が建つ前はもっと巨大なものだったそうです。また、高山寺には、本堂の近く、墓周辺、坂道のふもとの3箇所に貝塚があります。現在、高山寺にある赤い建物は、新しく出来た本堂です。その裏にある建物は、250年前の本堂です。

住職さんは何代目？

今の住職さんは、高山寺が豊臣秀吉によって焼かれた時(天正時代)から20代目だそうです。高山寺が焼かれる前は、たくさんの住職さんがいたそうです。

有名な人のお墓

高山寺には、南方熊楠・植芝盛平・喜多幅武三郎・毛利柴庵などのお墓があります。



毛利柴庵との出会い

昔、政府が神社合祀令をだしました。そのため神社の木々がどんどん伐採されてしまいました。熊楠はこれを非常に怒り、神社合祀反対運動を始めました。



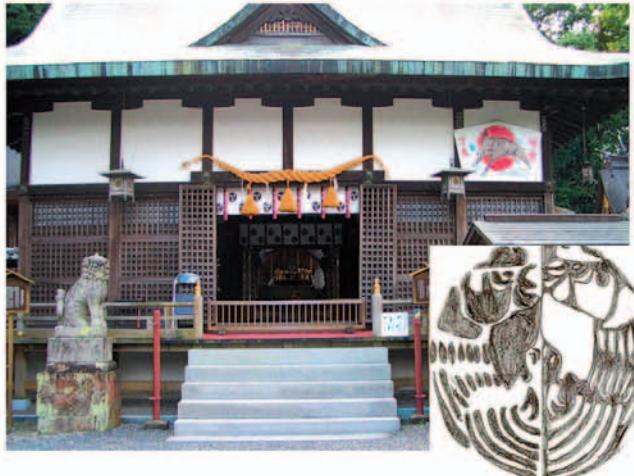
そこで、毛利柴庵(さいあん)とのつながりができました。熊楠のお気に入りは猿神社の祠の近くのタブノキでした。



【猿神社】

高山寺の南面山の一角に猿神社という神社がありました。明治末年、本村の稻荷社へ合祀されましたが、これが熊楠の神社合祀反対運動の発端となりました。

闘雞神社



闘雞神社は、壇ノ浦合戦で源氏を勝利に導いた熊野水軍の伝説が今に伝わる神社です。熊野別当の湛増（たんぞう）が源氏と平氏のどちらに味方をするかを紅白のにわとりを闘わせたことで、闘雞神社という名前がつきました。建物の中には源義経の笛や弁慶の湯釜（ゆがま）という貴重品があります。熊楠はよく一人でこの神社を訪れていました。



かりおやま 仮庵山

南方熊楠は、闘雞神社の裏山の仮庵山を採集の拠点としていました。この山は熊楠のお気に入りで、「暗がり山」と呼んでいました。周りの木々が日光をさえぎつ

ていつも、暗かったからだそうです。

熊楠の妻(松枝さん)

1906年（明治39年）7月、熊楠が40歳の時、闘雞神社の神主さんの娘さんで28歳になる松枝さんと結婚しました。

松枝さんは縫い物や生け花を教えて家の生活を助けるなど、心のやさしい働き者でした。

熊楠の植物の調査や粘菌の研究に協力する一方、知人などが持っている書物を次々と借りて、写すことに精を出しました。

以前の熊楠は今ほど有名ではありませんでしたが、現在は粘菌についての研究を中心とした博物学者としてとても有名になっています。

特に南紀地方にしかない植物を大切にして、闘雞神社の木が伐採されそうになった時は必死になって守りました。

た や むつお 多屋睦夫さんに聞きました！

多屋睦夫さんは、闘雞神社の宮総代を長年務められた方です。多屋さんの自宅は熊楠邸の近くにあります。実際に熊楠に会ったことがあります。かわいがってもらったそうです。熊楠はたくましくがっしりした体つきの人だったそうです。



多屋睦夫さん



日吉神社

日吉神社は田辺市の漁港、磯間（いそま）にあり古くは、山王権現（さんのうごんげん）と呼ばれていましたが、明治のはじめ「日吉神社」と改められました。

神社合祀反対運動

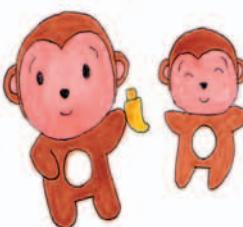
明治の末年、南方熊楠は日吉神社が合祀（合祀とは、ある神社に祀ってある神を、他の神社に合わせ祀ること）されようとした時、この神社の森が、他には見られないめずらしい植物や生き物が数多くいることを力説し、それらを守ろうと神社合祀運動に参加しました。

猿神さん

階段をのぼりきった左右に、猿の置物があります。地元の人々には「猿神さん」と呼ばれ親しまれています。



猿は古くから山王権現の神使いであり、この神猿を「まさる」と呼び「魔がさる」として縁起のよいものとされてきました。この神猿により厄魔(やくま)は退散して、海運招福、一家は益々繁栄すると信仰されています。





田辺新地・扇ヶ浜台場



田辺新地って？

「大人が息抜きのできる場所をつくろう！」ということで、大正8～9年、田辺市内に散在していた料亭など約30軒を集めて、田辺城跡に田辺新地がつくられました。昔は、芸者さんが大勢いたそうです。熊楠は、新地ができるからはあまりお酒を飲みに行ていませんが、新地の建設中は遠回りしてまで様子を見にいっていました。

田辺新地の現在の様子



以前は30軒以上あった料亭などのお店も、現在では10軒あまりしか残っていません。人通りも少なくなり、昔に比べてとても寂しくなりました。

旅館で結婚式を挙げました!!

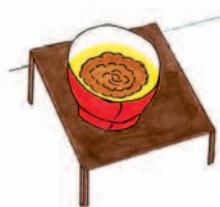
田辺城(錦水城)の水門の上に建てられた旅館、「錦城館」というところで、熊楠と妻・松枝さんの結婚式が挙げられました。明治5年の火事で焼失してしまいましたが、当時は海のそばで景色もよく、お客様がよく船を利用するなど、評判の良い旅館だったそうです。

扇ヶ浜台場

海からの黒船による攻撃を撃退するためつくられました。現在は松の木が少なくなっていますが、昔はとても大きな松林だったそうです。

熊楠は扇ヶ浜の松林に、友人の喜多幅武三郎さんとよく散歩を行っていたそうです。ここは、熊楠が「台場公園売却反対運動」をしたところとしても有名です。

田端紀男さんのお話



熊楠の脳が取り出された直後に見た、文枝さんのお話によると、熊楠の脳とアルコールが入っていた紅鉢の大きさは直径約50cmと深かったそうです。紅鉢は、熊楠の家の廊下にあつた机の上に置かれていたそうです。

法輪寺



熊楠が写した経典が！

法輪寺は、田辺市新屋敷の紀南文化会館の近くにあります。1620年(江戸時代初め)に西郷孫兵衛と言う武士が中心となって、建てられました。この寺は、曹洞宗と言う宗派です。きれいな庭の池には、鯉が、70匹以上います。鯉を見ながら、風の音を聞くと、心がおだやかになります。

熊楠は、このお寺にある経典を借りて写しました。特に有名なのは、「大藏經(一切經)」という経典です。これは田辺市の重要文化財

にもなっています。熊楠が3年半かけて写した経典の中には熊楠が書いた文字が残っているものもあって、現在も法輪寺の倉庫に大切に保管されています。



ストレス解消！

熊楠が、経典を写し始めたのは44歳の時で、神社合祀反対運動真っ最中でした。熊楠は毎日、朝の4時頃まで眠らずに写してい

たそうです。書き物の好きな熊楠にとってはこれがストレス解消になり、心を落ち着かせることになったそうです。



私たちの学校 田辺第一小学校



熊楠には熊弥と文枝という子どもがいました。熊弥は1914年(大正3年)、文枝は1918年(大正7年)に田辺尋常小学校(現在の田辺第一小学校)に入学しました。上の写真は、熊弥や文枝が通っていた頃の田辺第一小学校の写真です。

熊弥も文枝も元気な子で、友だちもいっぱいいて、外で遊ぶのが大好きだったそうです。熊楠は子どもたちの勉強には大変熱心だったので、二人ともよく勉強したそうです。学芸会には、母親の松枝が見にきていたそうです。熊楠は、このようなことを日記に残しています。



南方熊楠のエピソード、日常生活、研究、残した偉業などを通して熊楠のすばらしさを知っていましたか。一度、みなさんも田辺へ来て、熊楠の足跡をたどってみてください。